



2012 年 夏号

私たちが喪家とお会いするのは、(生前相談でお越しただく以外)ご家族のどなたかがお亡くなりになったときが初めてになります。もちろん、亡くなられた方とは、ご遺体にお会いさせていただくだけで、お声も聞いたこともございませんし、もちろん、お人柄も存じません。ご家族様のお話をとおして、故人様を偲ぶ術はないのです。

でも、私たちは、お声を聞かせていただけて、故人様をどのようにお送りさせていただいたらいかがか考えます。ご家族様が、どんなお葬式をお望みなのか、どのような御葬儀が、故人様のお人柄をお伝えできるのか、考えます。故人様が生きてこられた人生を、御葬儀を通して、もう一度ご家族の心に残していただくために、最後の日を悔いの無いようお過ごしいただくために、いつも、考えています。

御葬儀は結婚式などと違って、リハーサルも、稽古もありません。

二日ないし、三日で終わってしまうのです。御葬儀をお受けしてから、形にしていくな。御葬儀に参列して下さった方々の心に残る御葬儀。いい御葬儀だったね。

故人様がいかにか家族に愛されていたか。いかにお友達が多かったか。故人様の人柄が見え隠れする御葬儀。

花みずきのおくりびとは、全力で、いつも考えています。



生前相談

〜悔いなく見送るために〜

大切な方の寿命が尽きようとしている時、誰もがもしもの時のご準備をされます。ある奥様もご主人のことで相談に見えました。今まで看病にお力を注いでこられたのですが、医師から覚悟するよう告げられ、私共を知っておられるご友人から、花みずきに相談する様にすすめられて訪ねてこられたのです。

奥様は親戚や子供もおらず、何をされるにしても一人ですべてしなくてはならない状態でした。ただ、まわりのご友人の方々があたたかく見守っておられて、奥様の事を気にかけていらつしやいました。

奥様はご主人を見送るにあたり、派手ではないけれど、ご友人や近隣のお世話になった方々を招いて、最後のお礼の言葉を伝えたいという事でした。私も奥様が今まで、様々な方々に支えられ、感謝しておられるのが十分に理解できましたので、ご要望に添うべく担当させていただきました。誓いました。

万博公園 早朝観蓮会



- 7月6日(金) 7日(土) 8日(日)
- 13日(金) 14日(土) 15日(日) 16日(月)
- 20日(金) 21日(土) 22日(日)
- 早朝 6時～日本庭園 はず池無料
- ※ただし日本庭園入園料が必要
- 万博公園内の日本庭園の「はず池」では幻想的なハスの花の見頃に合わせ、早朝開園を実施しています。

翌週のことでした。ご主人が亡くなられたとの連絡を受けました。

会館にご安置させていただいたあと、打ち合わせに入りましたが、一日は奥様とご主人のお二人でゆっくりお過ごしいただきました。

湯灌の儀では奥様にも参加していただき、スタッフと一緒にお体を清めて、ご主人の好きだった洋服に着替えさせていただきました。

翌日のお通夜の儀には、ご夫婦のご友人が50名近くお見えになり、奥様もご安心から、少し笑顔がありました。

そして、ご主人とのお別れの日がやってきました。その日も通夜と変わらず、50名近くの方がお見えになりました。

ご読経の間、そしてあいさつの際も、奥様は気丈に振る舞われていました。お棺の蓋を開け、ご主人とのお別れの際も、ご友人方と一緒に副葬品を納められ、お花を手向けられました。

そして、間もなく出棺の時刻が近づいてきました。奥様がもう一度ご主人の傍により、お顔に手をそえられ、ご主人へ感謝の言葉を伝えられました。今までもずっと気丈に振る舞われていた奥様ですが、その瞬間、人目もはばからず涙を流されました。

いざというとき、ご遺族は大切な家族を亡くされて気が動転している中で、様々な葬儀に関する準備や段取りをしなくてはなりません。悲しみや喪失感の中で、葬儀の準備を進めることは心身ともに大きな負担となります。打ち合わせをしたり、そして、いざ葬儀が始まってみると、様々なことに追われてしまい、それこそ大切な方とお別れする暇がないほど忙しいことになってしまいます。その為、葬儀が終わってから、もう少しお花を沢山飾ってあげればよかった、お世話になった方々にもご連絡を差し上げるべきだったなど、こうしておけばよかったという、心残りが生まれやすいのです。

生前相談

〜葬儀を創る〜

近頃では、ご夫婦でお越しになりお互いの葬儀の事を決めていかれたり、子供さんと一緒にお越しになつて、葬儀の内容や費用の事をご相談なさつて行かれる方もいらつしやいます。

「自分はどのように送ってもらいたいのか」を考え、話し合っておくことが必要なのではないでしょうか。



イベント情報

去る5月20日に行った人形供養には、たくさんの方にお越し頂き、誠にありがとうございました。

皆様から寄せられたお人形は、お寺様にご読経をあげて頂き、無事供養させて頂きました。

今回の人形供養は花みずき会館初の試みではありましたが、予想以上の反響があり、スタッフも驚いています。

また多くの方から次回開催のご要望があり、来年度の開催を前向きに検討しているところです。

今後とも花みずき会館のイベント情報をお見逃しなく！
そして次回のイベントは

7月22日(日) 開催予定の

第12回花みずき会館フリーマーケットです。

こちらにも皆様に楽しんで頂けるようスタッフ一同
鋭意準備中です。どうぞご期待下さい。



神道の霊祭

みたま まつり



仏事(仏式)法要をご存知の方はとても多いと思いますので、今回は神社神道における霊祭を、臨終から葬儀・葬儀終了後とを紹介させて頂こうかと思ひます。

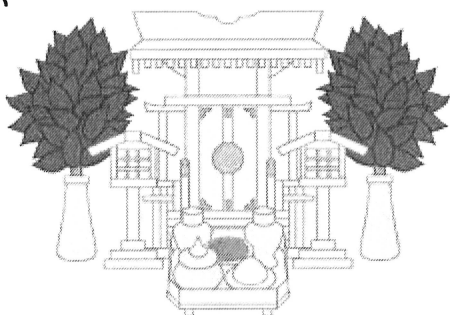
臨終から葬儀当日

- ① 枕直しの儀 まくらなおしのぎ
布団でお休みいただいで、守り刀を添えて枕飾りをします。
- ② 帰幽奉告 きゅほうこうく
帰幽したこと(亡くなったこと)を先祖に奉告して、神棚に半紙を貼る。
- ③ 納棺の儀 のうかんのぎ
故人を棺に納めます。一般的に通夜祭の日に行います。

- ④ 通夜祭・遷霊祭 つやさい・せんれいさい
斎主様により故人の霊を霊璽(みたましろ)に遷し留める儀式。
- ⑤ 葬場祭 そうじょうさい
いわゆるお葬式。
斎主様が故人の経歴などを祝詞によって讚え、霊璽に留まる霊に家族や子孫を守って下さるようお願いいたします。
- ⑥ 火葬場祭 かそうじょうさい
火葬場での最後のお別れの儀式。
- ⑦ 帰家祭 きかさい
火葬場から帰ってきてすぐに行う儀式
無事に葬儀が終わったことを神様に奉告する霊祭。

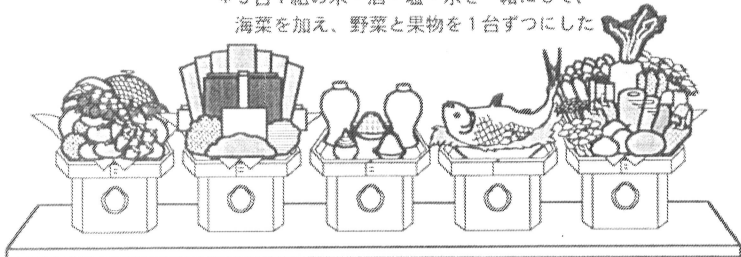
葬儀終了後の霊祭

- ① 十日祭 とおかさい
仏式でいうところの初七日。
最近では、葬場祭当日に行うことが多い。
- ② 二十日祭 はつかさい
- ③ 三十日祭 さんじゅうにちさい
- ④ 四十日祭 よんじゅうにちさい
- ⑤ 五十日祭 ごじゅうにちさい
仏式でいうところの満中陰。
②～④は、省略することが多い。
この五十日祭をもって忌明けとします。
- ⑥ 百日祭 ひやくにちさい
帰幽の日から百日後
- ⑦ 新盆祭 にいぼんさい
帰幽してから最初のお盆
- ⑧ 一年祭 いちねんさい
帰幽の日から一年後
- ⑨ 三年祭 さんねんさい
- ⑩ 五年祭 ごねんさい
- ⑪ 十年祭 じゅうねんさい
- ⑫ 二十年祭 にじゅうねんさい
- ⑬ 三十年祭 さんじゅうねんさい
- ⑭ 四十年祭 よんじゅうねんさい
- ⑮ 五十年祭 ごじゅうねんさい



基本形 (5台で最も一般的なものです)

- ①米・酒・塩・水 ②海魚 ③海菜 ④野菜 ⑤果物
- *5台1組の米・酒・塩・水を一緒にして、海菜を加え、野菜と果物を1台ずつにした



そして安定した霊は、祖霊舎(それいしや)に祀られ家族や子孫を守護下さると考えられています

新盆祭

「お盆って仏式だけではないの？」と思われる方が多いと思ひますが、古くから日本に伝わる固有の先祖祀りの儀礼なのです。この日本古来の先祖供養と、仏教における宗教行事が一緒になって風習化したものが、現在のお盆であるともいわれています。

霊祭の準備

霊祭には祭壇を準備します。床の間があれば、床の間に準備し、なければ祭事が行える部屋になるべく北向きにならないように設けます。祭壇は、段飾りでも広いテーブルでも良いそうです。

中央上段に祖霊舎を安置し、左右に神立て・燭台を置いて、神饌を三方に乗せて供えます。神饌は、日本酒・洗米・水・塩・海のもの(魚・するめ・昆布等)・山のもの(川魚・鳥・野菜・果物等)・菓子類を三方の台数に合わせて適量用意します。

お盆の際には、前述に加えて13日には餡つきのお団子を、15日には白い送り団子を供えます。お墓の清掃や家の内外の清掃もしておきましょう。

神道では、五十日祭・新盆祭・一年祭は特別に重要な霊祭を執り行います。なぜなら神道では、故人の新しい霊(みたま)はまだ荒ぶる魂で、霊として安定してないと考えられていて、一年祭を終えると霊として安定します。

最後までお読み頂き、ありがとうございます。
今後皆様にも役立つ情報を提供するために、ご意見や感想をお待ちしております。

スタッフ一同